

千葉大学の女性研究者支援の取り組み③

女性大学院生のキャリア形成のための支援

千葉大学大学院看護学研究科教授・両立支援企画室長

森 恵美

千葉大学両立支援企画室特任研究員

小玉小百合

平成十九年に実施した調査結果から、本学に在籍する女性大学院生が「モデルとなる研究者像に乏しいために、研究と結婚生活との両立に対する不安を持っている」ことがわかりました。そこで女性研究者支援モデル育成事業「支援循環型体制による女性研究者支援モデル」の一環として、研究者を目指す女性大学院生が、モデルとなる先輩女性研究者から学び、さらにその成果や大学院生での経験を自らがモデルとなり後輩に伝えることで、自身が受けた支援を他者に還元しながら、今後のキャリアを形成する上での不安や悩みを軽減できる体制づくりに取り組みました。

第三回の本稿では、平成二十、二十一年度の取り組みの様子とその成果についてご紹介いたします。

■女性大学院生「千葉大みる・ふいゆ」の結成

平成二十年五月に、モデルとなる女性研究者から学び、さらにその成果や大学院生としての経験を自らが大学院生としてモデルとなり後輩に伝える活動を実施するために、研究者を目指す女性大学院生を対象に活動メンバーを募集しました。書類選考、面談の上、参加

に意欲を示した理系女性大学院生を中心に、平成二十年度は七名、二十一年度は八名で組織を結成しました。これらの女性大学院生に対して本事業の趣旨等について説明し、学長からの本事業の活動メンバーとしての委嘱状を授与しました。

活動を始めるにあたって、メンバー自身に活動組織の名称を考えてもらいました。メンバー同士で意見を出し合った結果、洋菓子の「ミル・フィユ」が、フランス語で「干」と「葉」を意味すること、また日本語読みで「フィユ」の発音が、フランス語の「女の子、娘」を表す言葉の発音に近いことから、「千葉」大学の「女性」大学院生による活動にちなんで「千葉大みる・ふいゆ」と命名しました。その後の活動は、特任研究員が主催する月一回の打ち合わせへの参加を中心に行いました。

■モデルとなる研究者像を知る

平成二十年度は特任研究員の発案により、モデルとなる女性研究者から学ぶために、メンバーが直接女性研究者に取材を行い、その結果を他者に紹介してもらう活動を企画し、



キャリアガイダンスの様子

考えました。取材にあたっては、まず取材準備として、打ち合わせの場を利用して、特任研究員がファシリテーターとなり、メンバー同士で相手の話を聞き出す

方法を学ぶロールプレイングや、取材項目を考えるグループワークを行いました。取材対象者の決定にあたっては、本学のネットワークを生かして、各メンバーがそれぞれ話を聞いてみたいと思う女性研究者を選び、本学の事業の一環として大学から取材申し込みを行った上で、各メンバーが直接取材日程等の交渉を行いました。

取材終了後は、メンバー同士で成果を発表し合い、各自の取材成果をポスターにまとめ、西千葉および亥鼻キャンパスにてポスター展を開催しました。このポスター展には、延べ六六二名が来場しました。

■後輩のモデルになる

平成二十一年度は、各メンバーが大学院生活での経験から学んだことを後輩に伝えるキャリアガイダンスを実施しました。このガイダンスでは、先輩女性研究者から受けた支援を後輩に還元する形で、メンバー自身が大学院生のモデルとして、発表を行いました。

ガイダンス実施にあたっては、どんなことを後輩に伝えたいのかを明らかにするために、打ち合わせの場を使って、各自の大学院生活を振り返り、それぞれの経験を発表し合いました。そこでの発表をもとに、「修士から博士へ」研究者としての独り立ち、「いろいろな奨学金へ応募しよう」、「修士の進路選択」等を当日の発表テーマに決め、空き時間を利用して発表資料を準備した上で、メンバー同士で自主的に集まって発表のリハーサルを行い、当日に備えました。

平成二十一年十月十五日に開催したキャリアガイダンスには、学部生、大学院生が参加し、参加者からは「博士後期課程の方の話は

貴重だと思うので、このようなセミナーをぜひ続けてほしい」（修士課程）、「大学院の研究生活や就職活動などについて参考になった」（学部生）等の意見が寄せられ、好評を得ることができました。

■取り組みの成果と課題

平成二十年度の活動では、取材を終えたメンバーから、「女性という枠でくくらず、研究に誇りを持ち常に前向きに取り組む姿勢から人生を素敵に生きるパワーを感じた」（修士一年生）、「仕事においては『女性』であることを全く意識していらないこと、家族で過ごすことを最優先に考え、仕事を柔軟に選択していることが印象的だった」（修士二年生）、「子育てしながらでも、研究も申し渡りできるのだと勇気づけられた」（博士二年生）等の声が聞かれ、活動を通じて、今後のキャリアを形成していく上での不安を解消する手がかりをつかむことができた様子が見えられました。また平成二十一年度の活動で、



ポスター展の様子

メンバーはキャリアガイダンスで後輩のモデルとしての役割を果たすだけでなく、発表準備を通じて、自らの大学院生をあらためて考える機会を得ることができ

ました。

さらに、メンバー同士が協力して一つのイベントをつくり上げたことで、単なる活動メンバーとしての間柄だけでなく、研究生活を続ける上での不安や悩みを相談し合える関係へと発展し、研究分野を超えたネットワークづくりができました。こうした成果から、活動を事業の一環として組織的に進めつつ、メンバーが主体的に取り組む活動は、女性大学院生がキャリアを形成していく上で一つの有効な支援策であることがわかりました。しかし一方で、研究や実験で忙しく、途中で参加を断念せざるを得ないメンバーもあり、実験の多い理系大学院生をどのように支援していくかという課題も残りました。

本学では、平成二十二年より文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」に採択され、理系女性教員の新規採用と既在籍女性教員のスキルアップを目的とした「理系女性教員キャリア支援プログラム」をスタートしました。今後は理系女性



メンバー打ち合わせの様子

教員の増加を促進するために、理系女性大学院生が力を発揮できるキャリア形成支援活動を継続していきたくて考えています。